

COLUMN

3県(岩手、宮城、福島)の連携復興センターとJCN世話団体にも、震災以降の活動で影響を受けた出会いや期待する出会いというテーマで寄稿いただきます。今回はいわて連携復興センターの葛巻徹さんとJCN世話団体でもある日本生活協同組合連合会の山田浩史さんです

被災地のチャレンジを共に!

葛巻 徹(くずまき とおる)さん
特定非営利活動法人 いわて連携復興センター 代表理事

震災以降、大きく2つの出会いがあり、私は今ここにいます。一つは岩手県内外で活躍する同年代の皆さんとの出会いです。復興や、社会・地域課題に取り組む同年代の仲間達との邂逅から勇気を頂き、私が活動を続けている原動力となっています。経験の少ない私が何を目標せばいいかの羅針盤とさせて頂いており、この場をお借りしてありがとうございます。もう一つは、岩手県内で市民活動分野でチャレンジしている仲間達です。地域の課題に対して何もしないで傍観するという選択肢もあるのに、自分の使命に気付き活動している皆さんや岩手の為に汗をかいているかけがえのない皆さんがいるからこそ、私も今のNPOをサポートする活動をさせて頂いています。引き続き岩手で一緒に活動させて下さい。

これから期待する出会いは、チャレンジする人を応援したいという人たちとの出会いです。震災で、被災地の時間軸は10年早まったといわれています。ここでのチャレンジはまさに日本の地域課題解決の最先端に関わる事だと思っています。今だからこそ、それを一緒に成し遂げる全国の仲間と出会いたいです。

【プロフィール】1977年生まれ。岩手県花巻市出身、在住。2007年頃からサラリーマンの傍ら市民活動に関わる。2011年からNPOの専従職員となり、2018年より現役職。日本ファンドレイジング協会東北チャプター共同代表も務める。



被災に備えて 平時から心がけること

山田 浩史(やまだ ひろし)さん
日本生活協同組合連合会 組織推進本部
サステナビリティ推進部 地域・コミュニティー担当

東日本大震災の当時は内閣府に出向勤務し、国の審議会を運営していました。私も帰宅困難者になり、首都圏における交通網の混乱など機能不全のリスクを実感しました。2017年の秋より被災地支援に関わるようになりましたが、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震では、支援物資の手配、災害ボランティアセンターの運営、避難所の炊き出しなどの支援のコーディネートを経験させていただきました。

東日本大震災発生後、全国の生協は、被災者の緊急支援として、安否確認や自治体への支援物資の提供、生協のトラックによる避難所への配送にも協力しました。生活再建支援の取組みとしては、生活必需品の入手が困難な地域での移動販売・炊き出し・弁当宅配の実施、買い物バス運行、サロン活動などを続けています。改めて、地域における生協の役割発揮が求められていることがわかりました。

これらの経験を通じて平時から地域の課題に行政、社協、NPOなどが連携して取り組むことが、災害時にも団体の特性を活かした支援の環境づくりにつながると感じるようになりました。生協が積極的に地域の団体とつながるために、コーディネーターなどの人材育成の必要性も感じています。今後も災害時に、被災者・被災地のニーズに沿った物資や人の支援になることを目指し、ヒト・モノ・カネの支援を適切にマッチングしていきたいです。

【プロフィール】2017年秋から県域・広域災害に備えた平時からのネットワークづくり、災害支援などに関わっています。2004年入協。学協支所(食品バイヤー)内閣府出向、組合員活動部、地域・コミュニティー担当。



JCN REPORT VOL.12

～東北の「今」を知り全国で復興を支えつづけるために～

発行: 2019年3月
東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル245 JNPOC 気付
TEL. 03-3277-3636 FAX. 03-6701-7332 URL. http://www.jpn-civil.net/
編集: JCN事務局スタッフ デザイン: キシタカユキ 印刷: 株式会社トライ

今だからできることがある

Walk with 東北

震災を忘れない気持ちをあらわすプロジェクトです



JCN REPORT

JAPAN CIVIL NETWORK FOR DISASTER RELIEF IN THE EAST JAPAN

VOL.12

MARCH 2019

東北の「今」を知り
全国で復興を支えつづけるために

東日本大震災と 担い手の思い③

「声」に耳を傾け、「思い」に触れ、「何か」を考えてみませんか。
岩手県、宮城県、福島県、広域避難者支援において活動する多様な16名が登場

[Column]

葛巻 徹さん
(特定非営利活動法人 いわて連携復興センター 代表理事)
山田 浩史さん
(日本生活協同組合連合会 組織推進本部)



東日本大震災支援
全国ネットワーク

地域の課題を一緒に考え取組みたい

のまはら 代表

Q.震災以降の活動で影響を受けた出会いを教えてください。

私たちは「のまはら」という農業交流を主体にした支援団体です。前身は震災で被災した方々の互助組織でした。私も南相馬からの避難者で車中泊などを繰り返し、縁もなかった奈良の公営住宅に入居しました。人の繋がりがほとんどなくなり、ほぼ2カ月人との会話がなくなったとき、これ以上ない不安がこみ上げました。そんな時に奈良の市民団体の方が訪ねてきたことがいまの活動の出発点と言えます。震災支援の活動に加わり、ボランティアの方々、被災された方々と繋がりをもつことによって、沢山の素晴らしいご縁を頂きました。いま取り組んでいる農業交流活動は、過疎が進んだ、有休農地と付随の空き家を活用してみないかと、奈良のある方から相談を受けたのがきっかけでした。農作業という共通目的をもってはじめた避難者交流会は、会を重ねる中で、とてもよい成果をあげることができました。

Q.今後期待する出会いを教えてください。

震災支援活動から8年を経てこれからは奈良の地域に根差した組織へと活動を広げていきたいと思っています。避難者同士やかかわる人たちだけのネットワークに留まらないで、自分たちが住む人たちとの関わりを積極的に持ちたいです。自分たちの課題だけではなく地域の課題も一緒に考えて取り組むことを目指したいです。



震災まで南相馬市で山荘を営む。震災後、奈良に避難し、2011年5月「奈良災害支援ネット」に参加、2012年3月「奈良県被災者の会」結成。2017年「のまはら」として新たにスタート。有休農地を再生しながら農家として修業中。

活動地域
奈良県内
連絡先
Tel:050-3636-7123(10:30-19:00)
Mail:mail@nomahara.com

これまでつながった人たちと しっかりつながり続けたい

みうら あや ん
広島避難者の会アスチカ 代表

Q.震災以降の活動で影響を受けた出会いを教えてください。

広島に避難した人たちの交流会でお世話をしていた避難者が中心になって「アスチカ」は発足しました。広島市社会福祉協議会をはじめ、広島のボランティアの方たちのサポートがあったからこそ継続できていると思っています。また、各地の当事者団体や支援団体との交流が様々な活動のきっかけにもなりました。一方で、自分自身まわりに「サポートしてください」と言うことに慣れておらず、不安がたくさんありました。各地に出かける中で出会った北海道の当事者団体「みちのく会」の本間紀伊子さんは、相談するたびにじっくり話を聞いてくれて、気持ちが楽になりました。みちのく会は解散しましたが、いまでも活動の参考になっています。

Q.今後期待する出会いを教えてください。

避難したことで出会ったアスチカのスタッフ。その多くはもともとこういった活動の経験もない中で、みんなすごく頑張ってきたと思っています。これまでの経験を振り返りながら、自らの足元を固めながら、それぞれが信じる幸せをつかんでもらいたいです。私自身は、本当に多くの人と出会うことができました。これからもいろんな人と出会うと思いますが、これまで出会ってきた人たちとのつながりをしっかり続けていきたいと思っています。震災前の状態にすべて戻ることはできませんが、いまの自分と向き合って、これからもがんばりたいと思っています。



2011年3月11日いわき市で震災にあう。三姉妹の母。夫はいわき市で会社を経営。2012年10月広島に避難した方と当事者の会ひろしま避難者の会「アスチカ」設立。福島と広島を行き来しながら活動を継続している。

活動地域
広島県・山口県・島根県
連絡先
Tel:082-962-8124
Mail:hiroshima.hinan@gmail.com

これまでの経験や知識、知恵を生かしていきたい

子にしま うこ ん
一般社団法人 みんなの手 代表理事

Q.震災以降の活動で影響を受けた出会いを教えてください。

避難してからを振り返ると、いろんな人に出会いました。ずっと同じではなく、時間の経過とともに変わっていきました。市民、ボランティア団体、マスコミなど様々です。避難した人たち同士の助け合いから、みんなの手の取組みは、はじまりました。避難先での暮らしが大変だと思っている避難者と、「なにかをしたい」という人たちの思いをつなげたくて、グループをつくりました。同じ立場、同じように子どもを持ったお母さんたちとは、この避難があったからこそ出会うことができた人たちです。これからも、京都の「なにかしたい」という思いを持っている人たちをつないでいきたいと考えています。

Q.今後期待する出会いを教えてください。

避難してから、最初に手を差し伸べてくださった方、同じように避難された方、保養に協力してくださった方、取材していただいたメディアの方、まちづくりやソーシャルビジネスに取り組んでいる方など、「みんなの手」という場を通じて、コミュニティは広がりました。いま各地で自然災害が発生しているので、そういった地域でも私達の経験を伝えていきたいです。避難先でお世話になるだけではなく、経験や知識、知恵を活かしていきたいです。また、京都と福島のつながりはこれまでもつないできましたが、さらに各地にいる人たちとのつながりも紡いでいきたいです。



福島県福島市出身。京都市に母子避難後、「みんなの手」を発足。「寄り添う・つながる・結ぶ」を柱に、避難者の孤立防止・地域との連携・ふるさととの絆作り事業を行う。前職は通訳・英語講師。京わっぱ町家カフェ「きのわ」と英語教室運営等も行う。

活動地域
京都府・関西
連絡先
Tel:070-5656-5621
Mail:minnanotekyoto@gmail.com

できることから、つながりつなぐ

たけ つ ん
さんりくのつながりHAMANASU会

Q.震災以降の活動で影響を受けた出会いを教えてください。

よく考えてみるとね、一番影響を受けたのは、当時、大熊町復興支援員をしていた牟田さんなんだよね。彼女は陸前高田市で活動した経験もあって、陸前高田市を舞台にした映画「先祖になる」の東京町田市で上映会やるときに後押しをしてくれました。その上映会のアンケートをみると岩手から避難した者同士で会いたいという声が多くてね。元々岩手から避難した人が少ないため、避難者向けの交流会に参加しても寂しく感じるが多かったんです。そんなことから、都内近郊で開催されているサロンに足を運んで、仲間を連れ出したり、なかなか会えない人や出てこれない人には絵葉書を送ったり、自然と一人ひとりをつなげることをしてたのかなと思います。

Q.今後期待する出会いを教えてください。

震災という辛いことはありましたが、避難してからの出会いが今でも続いていることを考えるとすごいと思うし、刺激を受けています。向こうでの生活が続いていけば、もしかしたら出会う人も限られていたかもしれせん。これからも自分でも気づかないうちに、いろんな刺激を受ける生活が続いていくと思います。津波の被害にあった方を思うと、今生きていること自体ありがたいことだと感じます。自分のことを必要としてくれる人がいるならば、できることを楽しみながら、続けていきたいと思っています。



東京都生まれ。家族で陸前高田市へ移住し、25年目を迎えた年に被災。東京都町田市へ避難後当事者団体「東北の絆・サロンFMI会」の中心メンバーとして活動。現在も東京近郊のサロンなどへ足を運び続けている。

活動地域
東京都、神奈川県とその近郊
連絡先
https://www.facebook.com/tsuneo.takeda.96